教材・支援機器活用実践事例

【難聴のある児童への音に関する指導】

	実施年度	平成２７年度
授業について	教科名等	自立活動
	単元・題材名	「音の大きさを調べよう」
	授業における教師のねらい	・外界への関心が高まり、積極的に人やものとつながろうとすることができる。 ・どんな音がどれくらいきこえるかといった、自分自身のきこえの状態を把握することができる。
	授業における子どもの目標	・音の大きさに関心を持ち、意欲的に調べ活動をすることができる。
子どもについて	学校・学級・学年	小学校　通級による指導（難聴通級指導教室）　高学年
	対象の障がい	難聴
	授業形態	個別学習
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	・人とつながるために最も重要なコミュニケーションの機会や情報の共有が十分に保障されていないため、外界への関心や人とかかわろうとする意欲が低下しやすい。
教材・支援機器活用	使用した教材	 ＜騒音計＞ ＜学習用オージオグラム＞
	活用のねらい	＜騒音計＞・音の大きさを測るが数値で表示されるので比較しやすい。また、音の大きさが変動することも視覚的にすぐ分かる。 ＜学習用オージオグラム＞ ・オージオグラムに表記されている言葉の意味や見方を理解する。
授業における支援 ・教材の配慮事項		・騒音計の使い方を説明してから使用させる。 ・学習用オージオグラムは、各項目の用語を穴埋めの形にしておく。 ・調べた音を付箋に記入し、該当する場所にはっていくようにする。
子どもの変容や評価		・学習用オージオグラムをもとに活動を振り返ることで、楽器の音の大きさと人の声の大きさを比較したり楽器同士の音の大きさを比較したりすることができた。 ・「嫌な音」や「うるさく感じる音」という新たなキーワードをもとに、興味関心の幅を広げるとともに、次の学習につなげる課題を見つけることができた。